

環状列石(ストーンサークル)とは？

大森勝山遺跡のような、直径数十メートルにおよぶ大型の環状列石は、主に縄文時代後期前葉頃(約4,000年前)に、北東北から南北海道にかけて作られています。多くの環状列石では、作る前に自然の地形を作り替える土木工事を行ったり、石の下や周囲にお墓を作ったりしています。また、環状列石の周りに人はあまり住んでおらず、石を運ぶ時などに周りの村から集まってきて作ったようです。このような特徴は、約1,000年後の縄文時代晩期前半に作られた大森勝山遺跡でも見られます。

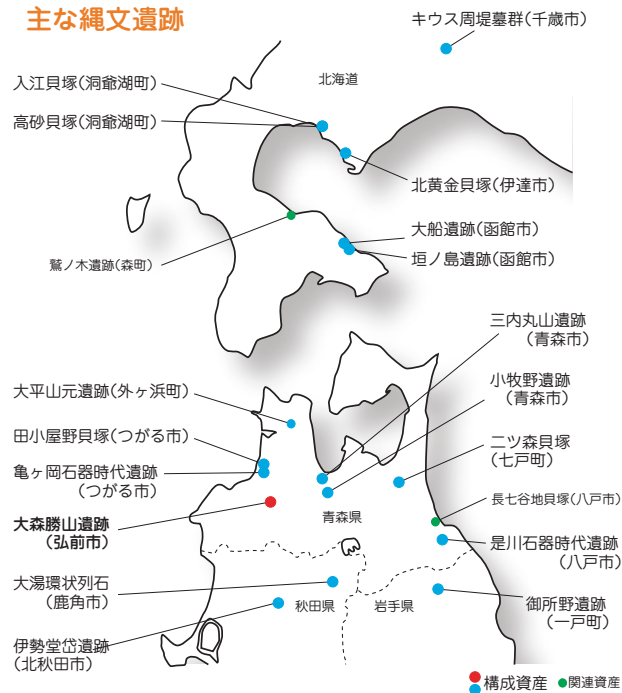
どうやら、環状列石は死者を弔ったり、祭りを行ったりする特別な場所だったようです。

世界遺産登録にむけて

縄文文化は、狩猟・採集・漁労を生業の基盤として定住を達成し、約1万年もの間持続した、世界的にも極めて特徴的な先史文化です。そして、北海道・北東北地域には、この縄文文化を代表する遺跡が多数存在しています。

現在、北海道・青森県・秋田県・岩手県の4道県を中心に、この「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界文化遺産として登録する取り組みを行っており、本遺跡もその17の構成資産の1つとなっています。

主な縄文遺跡



アクセスマップ



【史跡を見学される方々へ】

- 現在、環状列石・大型堅穴建物等の遺構は保護のため埋め戻されています。
- 史跡の駐車場へは、農作業車優先の1kmほどの農道を通ることとなりますので、ご協力ください。また、スピードの出し過ぎ、乱暴な運転などはおやめください。
- 史跡内の見学は自由となっておりますが、園路や柵などは整備されておりません。遺跡を散策される際には、転倒、急斜面・河川での滑落などに十分お気を付けください。
- 遺跡内は火気厳禁です。
- 周辺の農家の方々の迷惑となるような行為はおやめください。
- 大雨の時には河川が増水しますので、ご注意ください。
- クマ・ヘビ・ハチなどが出没するおそれがありますので、ご注意ください。

出土品の公開

大森勝山遺跡の環状列石が作られた縄文時代晩期は、精巧で美しい文様をもつ製品が作られた亀ヶ岡文化が栄えた時期で、遺跡からも同じような文様を持つ土器が出土しています。

出土品は下記の施設に展示されていますので、是非訪れてみてください。

■ 裾野地区体育文化交流センター(無料)

〔開館時間〕 午前9時～午後9時

〔休館日〕 月曜(祝休日の場合は翌日)・年末年始(12/29～1/3)

〔TEL〕 0172-99-7072



出土した注口土器



裾野地区体育文化交流センター 展示コーナー

お問い合わせ先

青森県弘前市教育委員会文化財課

〒036-1393 弘前市大字賀田一丁目1-1 弘前市岩木庁舎 3階
TEL 0172-82-1642

国指定
史跡

大森勝山遺跡

三千年前の環状列石
ストーンサークル

おいわやま
岩木山をのぞむ縄文人の祈りの場
いわせやま

大森勝山遺跡は、青森県の最高峰、岩木山の北東山麓に位置する遺跡です。

全国的にも希少な縄文時代晩期の環状列石を有する遺跡として、平成24年に国の史跡に指定されました。

遺跡からは、約3,000年前に作られた環状列石や大型竪穴建物跡が、良好な状態で確認されており、豊かな自然環境の中で、環状列石の後背には岩木山を望むことができます。この縄文時代を彷彿とさせる景観は、国内の縄文時代の遺跡の中でも屈指のものであります。

大森勝山遺跡は、昭和30年代の岩木山麓の大規模開発に先立ち、昭和34年から36年にかけて実施された発掘調査により発見され、また、昭和36年に弘前市による公有地化により遺跡保護が図られました。

市では史跡指定を目指して、平成18年から20年まで再調査を実施し、半世紀ぶりに環状列石が検出されました。調査後、遺跡は保護のため埋め戻されており、現在は三たび永い眠りについでいます。



再調査時の環状列石(北東から)

豊かな景観に囲まれた大森勝山遺跡の貴重な価値は、先人の尽力により現代へと伝えられたものです。市では、その価値をより高めつつ次の世代へと継承するため整備事業を開始しており、今後も保存と活用を図っていきます。

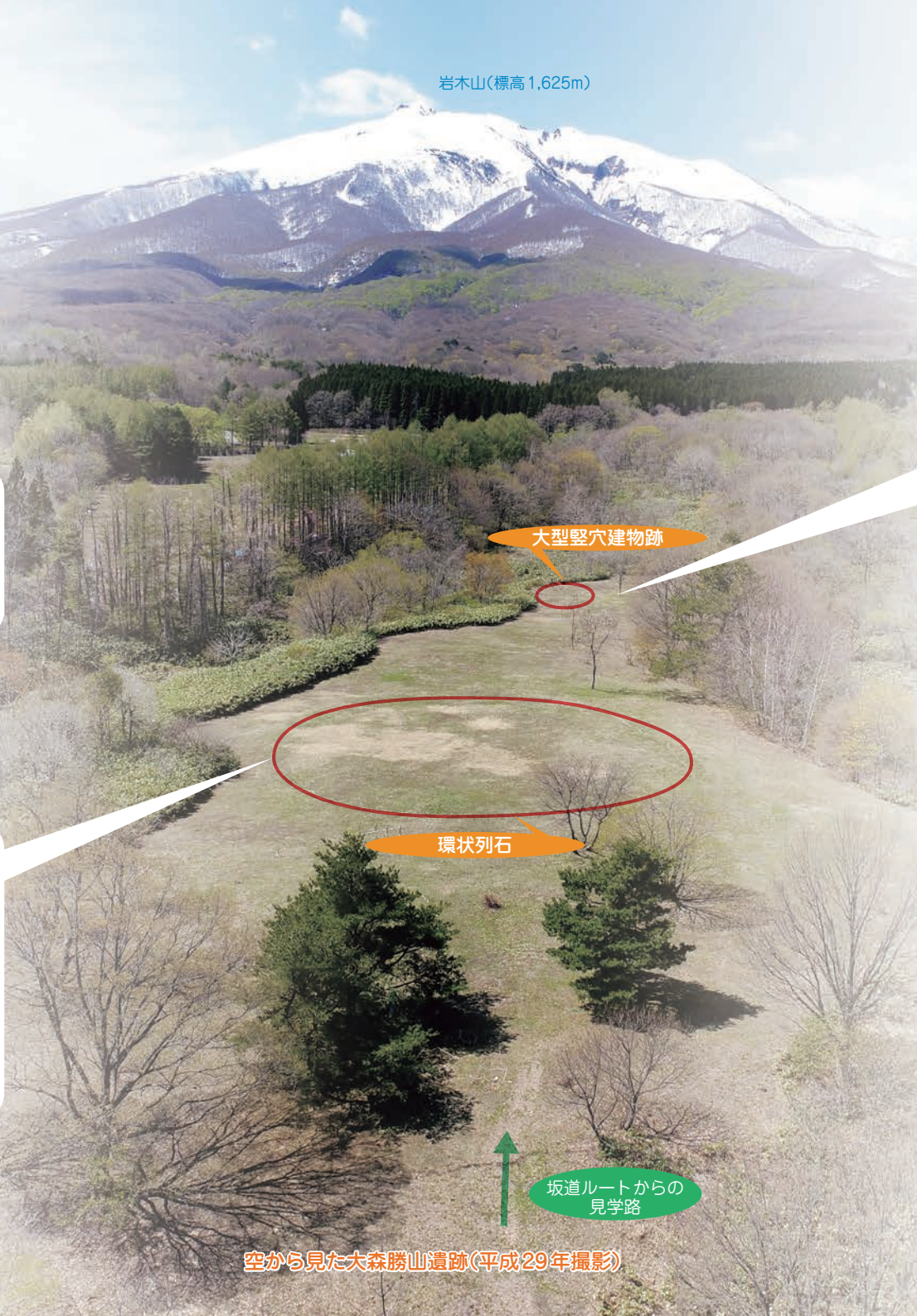
環状列石



再調査時の環状列石(真上から)

環状列石は台地の最も広いところに作られています。77基の石の集まり(組石)が、北東から南西方向に長い楕円形に配置されており、長径が48.5メートル、短径が39.1メートルあります。

現在は埋め戻されており、ロープで位置を表示しています。今後、自然石材による復元整備を行う予定です。



岩木山(標高1,625m)

大型竪穴建物跡

環状列石

坂道ルートからの
見学路

空から見た大森勝山遺跡(平成29年撮影)



昭和34年の調査風景



現在の様子

大型竪穴建物跡

昭和34年の調査で、台地の奥に竪穴建物が見つかっています。直径が13.8メートルもある大きな建物跡で、中央に石で囲まれた炉が作られています。

現在は埋め戻され、大きな凹地となっています。今後、遺構表示等の整備を行う予定です。

階段ルートからの
見学路



遺跡の入口に駐車場と説明板があります。遺跡を見学される方は説明板右手の林を通り、台地へとお進み下さい。なお、急斜面となっている部分がありますので、ご注意ください。今後、トイレや駐車場、園路などを整備する予定です。